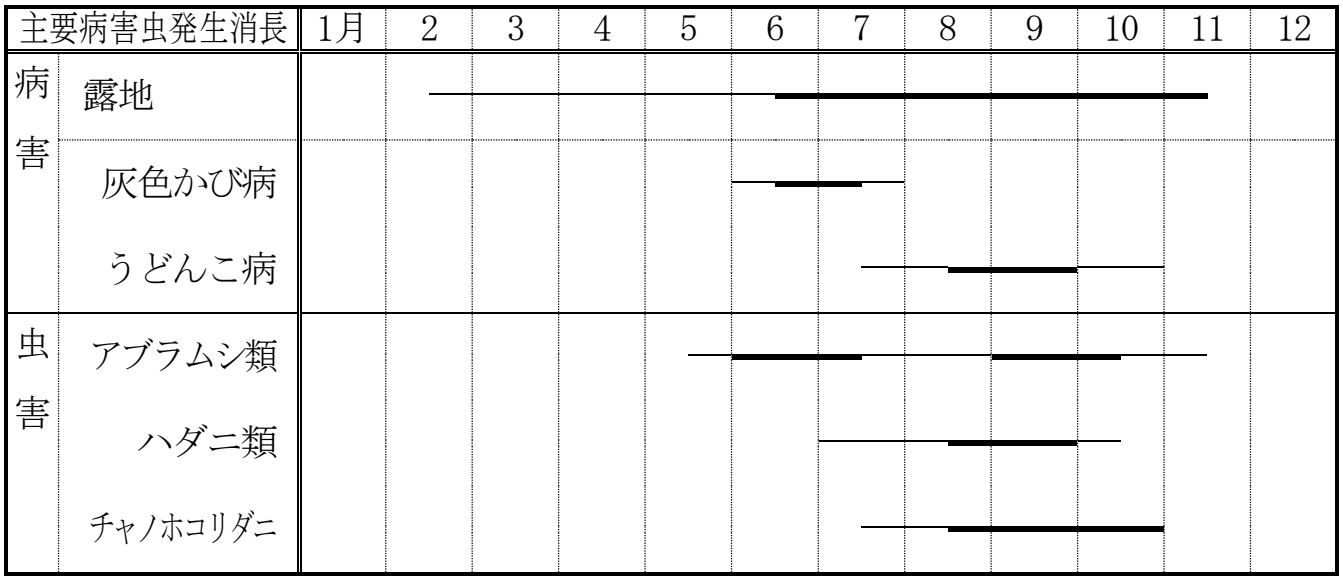
ナス（野菜類の登録農薬も使用できる）



作　型　　—；栽培期　　━；収穫期
病害虫発生消長　—；発生期　　━；発生盛期

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
疫病	生育期	**1. 高畦にして畑の排水をはかる。** **2. マルチ栽培をする。** 3. 発生を認めたら次の薬剤を散布する。 サンボルドー（水）　300～600倍	
褐色腐敗病	生育期	**1. 高畦にして畑の排水をはかる。** **2. マルチ栽培をする。** 3. 発生を認めたら初期に次の薬剤のいずれかを散布する。 ホライズンドライフロアブル　2500倍 ランマンフロアブル　2000倍	褐色腐敗病は疫病の一種であり、６月中旬～９月下旬に高温多雨の年に発生が多い。
灰色かび病	生育期	**1. ハウス内では過湿に注意する。** 2. 発生を認めたら次の薬剤のいずれかを散布する。 ゲッター水和剤●　1000～1500倍 スミレックス水和剤●　1000～2000倍 セイビアーフロアブル20　1000～1500倍 ダコニール1000（FL）　1000倍 フルピカフロアブル●　2000～3000倍 ベルクートフロアブル　2000倍	施設栽培で発生が多いが、低温多湿が続くと露地でも発生する。 果実の発病は咲き終わった花弁から始まるので、多発期には花弁を摘み取ってやると良い。 ●耐性菌を生じるおそれがあるので、連用しない。

ナス(野菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
半身萎凋病	播種前	1. 床土消毒する(土壌消毒の項参照)。 **2. トルバム・ビガー、トレロなどの台木を用いて接木栽培を行う。**	病原菌は多犯性でイチゴ、ウド、オクラ、フキ、キク等を侵す。 トルバム・ビガーは低温期の生育が遅いので注意する。 接木栽培とマルチ畦内消毒を併用すると効果が高い。
	定植前	・本畑は消毒を行う(土壌消毒の項参照)。	
	生育期	・次の薬剤を土壌灌注する。 ベンレート水和剤 500倍　200～300ml/株 1000倍　400～600ml/株	
黒枯病	生育期	**1. マルチ栽培する。** 2. 発生を認めたら次の薬剤のいずれかを散布する。 ゲッター水和剤　1500倍 ダコニール1000(FL)　1000倍 ロブラール水和剤　1000～1500倍	黒枯病は施設で発生が多いが、多湿時には露地でも発生する。
苗立枯病	播種前および播種時	1. 床土を消毒する(土壌消毒の項参照)。 2. 播種時に次の薬剤を灌注する。 リゾレックス水和剤＃ 500倍　3ℓ/㎡	病原菌はリゾクトニア菌、ピシウム菌、フザリウム菌による。 ＃リゾクトニア菌にのみ有効である。
	発芽後	・発病したらすぐ抜きとる。その跡や周りに次の薬剤を灌注する。 オーソサイド水和剤80 800倍　2ℓ/㎡	
すすかび病	生育期	・発生を認めたら次の薬剤のいずれかを散布する。 アミスター20フロアブル　2000倍 ダコニール1000(FL)　1000倍 トリフミン水和剤●　3000倍 ベルクートフロアブル　2000倍 ロブラール水和剤●　1000倍	施設で発生が多いが、露地でも梅雨期や秋雨期に多発することがある。 ●耐性菌生じるおそれがあるので連用しない。
うどんこ病	生育期	・発生を認めたら次の薬剤のいずれかを散布する。 アミスター20フロアブル　2000倍 サプロール乳剤●　1000～2000倍 トリフミン水和剤● 3000～5000倍 パンチョＴＦ顆粒水和剤● 2000倍 ベルクートフロアブル　2000倍 モレスタン水和剤　2000～3000倍	●耐性菌を生じるおそれがあるのでＥＢＩ剤は連用しない。

ナス(野菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
青枯病	播種前	1. 床土消毒をする。(土壌消毒の項参照)。 **2. 接木栽培を行う。**	トマトの青枯病の項参照
	定植前	・本畑は消毒を行う。(土壌消毒の項参照)。	
	生育期	**1. 高畝栽培する。** **2. 発病株は早期に処分する。**	
半枯病	定植前	**1. 発生圃場ではナス以外の作物を栽培する。** **2. 接木栽培を行う。**	病原菌はナスのみを侵し、土壌中に長期間生存する。 発生がひどい場合には耐病ＶＦを台木として接木栽培する。
	生育期	**・発病株は早期に処分する。**	
褐色斑点病	生育期	**・被害茎葉・果実を除去する。**	リゾクトニア菌により葉腐れ、落葉、果実腐敗を生ずる。 発生は突発的で、気象条件に大きく左右される。7～9月降雨が連続すると蔓延が速い。
アブラムシ類(モモアカアブラムシ・ワタアブラムシなど)	定植時	・次の薬剤のいずれかを植穴に施用し、土とよく混ぜる。 アクタラ粒剤5　１ｇ/株 アドマイヤー1粒剤　1～2ｇ/株 オルトラン粒剤　1～2ｇ/株	
	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 ウララＤＦ　2000～4000倍 ダントツ水溶剤　2000～4000倍 マラソン乳剤　2000～3000倍 モスピラン顆粒水溶剤　4000倍	
コナジラミ類	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アプロードエースフロアブル　1000～2000倍 アルバリン顆粒水溶剤　2000～3000倍 スタークル顆粒水溶剤　2000～3000倍 ベストガード水溶剤　1000～2000倍	
アザミウマ類	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アファーム乳剤　2000倍 スピノエース顆粒水和剤　2500～5000倍	

ナス(野菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
ミナミキイロアザミウマ	定植時	・次の薬剤のいずれかを施用する。 ベストガード粒剤 (植穴土壌混和) 1～2ｇ/株 モスピラン粒剤 (植穴土壌混和) １ｇ/株	
	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アファーム乳剤＃ 2000倍 モスピラン顆粒水溶剤＃ 2000～4000倍	＃アザミウマ類での登録
トマトハモグリバエ	生育期	・発生を見たら早めに次の薬剤のいずれかを散布する。 プレオフロアブル＃ 1000倍 プレバソンフロアブル５＃ 1000～2000倍	＃ハモグリバエ類での登録
オオタバコガ	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アファーム乳剤 2000倍 エスマルクＤＦ＊ 1000倍 コテツフロアブル 2000倍 フェニックス顆粒水和剤 2000～4000倍 プレオフロアブル 1000倍 プレバソンフロアブル５ 2000倍	＊野菜類での登録
ネキリムシ類	は種時又は定植時	・次の薬剤のいずれかを土壌混和する。 カルホス粉剤 6kg/10ａ ダイアジノン粒剤5 4～6kg/10ａ	発生量は多くない。被害株の株元の土を調べ、幼虫を捕殺する。
	生育初期	・次の薬剤を株元散布する。 ガードベイトＡ(粒) 3kg/10ａ	
テントウムシダマシ類(ニジュウヤホシテントウ・オオニジュウヤホシテントウ)	生育期	・発生が多いときは次の薬剤のいずれかを散布する。 コテツフロアブル 2000倍 サイアノックス乳剤＃ 1000倍 スミチオン乳剤 1000～2000倍 モスピラン顆粒水溶剤 4000倍	ジャガイモを加害後、ナス、トマト、ゴボウなどに移り被害を与える。 ＃テントウムシダマシでの登録
ハダニ類	生育期	・発生初期に次の薬剤のいずれかを散布する。 コロマイト乳剤 1500倍 スターマイトフロアブル 2000倍 ダニサラバフロアブル 1000倍	乾燥が続くと発生が多い。多発すると防除がむずかしい。初期のうちに、むらのないように防除する。

ナス(野菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
チャノホコリダニ	発生初期	・被害症状が見られたら次の薬剤のいずれかを散布する。 アファーム乳剤　2000倍 アプロードエースフロアブル　1000倍 コテツフロアブル　2000倍 モレスタン水和剤◇　2000倍	夏期、高温乾燥条件で多発する。 ◇モレスタン水和剤は花弁に薬斑が出るが、着果などにほとんど影響はない。
ネコブセンチュウ	播種前	・床土は土壌消毒する(土壌消毒の項参照)。	△定植前のネマトリンエース粒剤の施用は、オンシツコナジラミ、ミナミキイロアザミウマ、ハダニ類にも登録がある。
	定植前	1. 作付予定地で前作物に寄生があったところでは土壌消毒する(土壌消毒の項参照)。 2. 次の薬剤のいずれかを全面土壌混和する。 ネマキック粒剤　15～20kg/10ａ ネマトリンエース粒剤△　15～20kg/10ａ	
その他の病害虫		黄化えそ病(ＴＳＷＶ：最近問題になっている病害虫の生態と防除の項参照)	